

# ティーチング・アシスタント手引書

平成 19 年 9 月 20 日

教育企画会議 了承

## ティーチング・アシスタント (TA) の皆さんへ

ティーチング・アシスタント実施にあたっては、TA としての自覚を持ち、自己の職務の範囲を把握し、その職責を完全に果たしていくという責任感を持つことが重要です。ここに TA の目的、身分、留意すべき点を述べますので、これをよく読み、授業科目担当教員の指導のもとで職務にあたってください。

### I. ティーチング・アシスタント (以下 TA) 制度の三つの目的

1. 大学院学生の教育的補助により、学士課程教育のきめ細かい指導を実現する。  
〈授業改善〉
2. 大学院学生が将来大学や社会の指導者になるためのトレーニングの機会を提供する。  
〈大学・社会のリーダー養成〉
3. 大学院学生の生活を援助する。  
〈財政的援助〉

### II. 身分・保証

皆さんは辞令をもって、発令期間中、ティーチング・アシスタントの職に採用され、職務に従事している間は正規の職員に準じた扱いとなります。(詳しくは「宇都宮大学ティーチング・アシスタント実施要領」参照のこと)

### III. TA として留意すべきこと

- ① 倫理規定：性・人種・民族に拘らず、学生たちには平等・公正に教育を受ける権利がある。差別的な表現や偏った指導は堅く禁じられる。

② プライバシーの尊重・守秘義務

学生の個人情報や私生活について知る機会があるが、学生が信頼して提供していることを理解し、そのプライバシーを尊重して対応する。

③ セクシュアル・ハラスメントの禁止

- 教室内での性差別表現や、学生を性的に不愉快にさせる言動は慎む。
- 性に関する言動に対する受け止め方には、個人間や男女間、その人物の立場等により差があり、セクシュアル・ハラスメントに当たるか否かについては、相手の判断が重要であることを十分に認識する。
- 勤務時間外におけるセクシュアル・ハラスメントにも注意する。

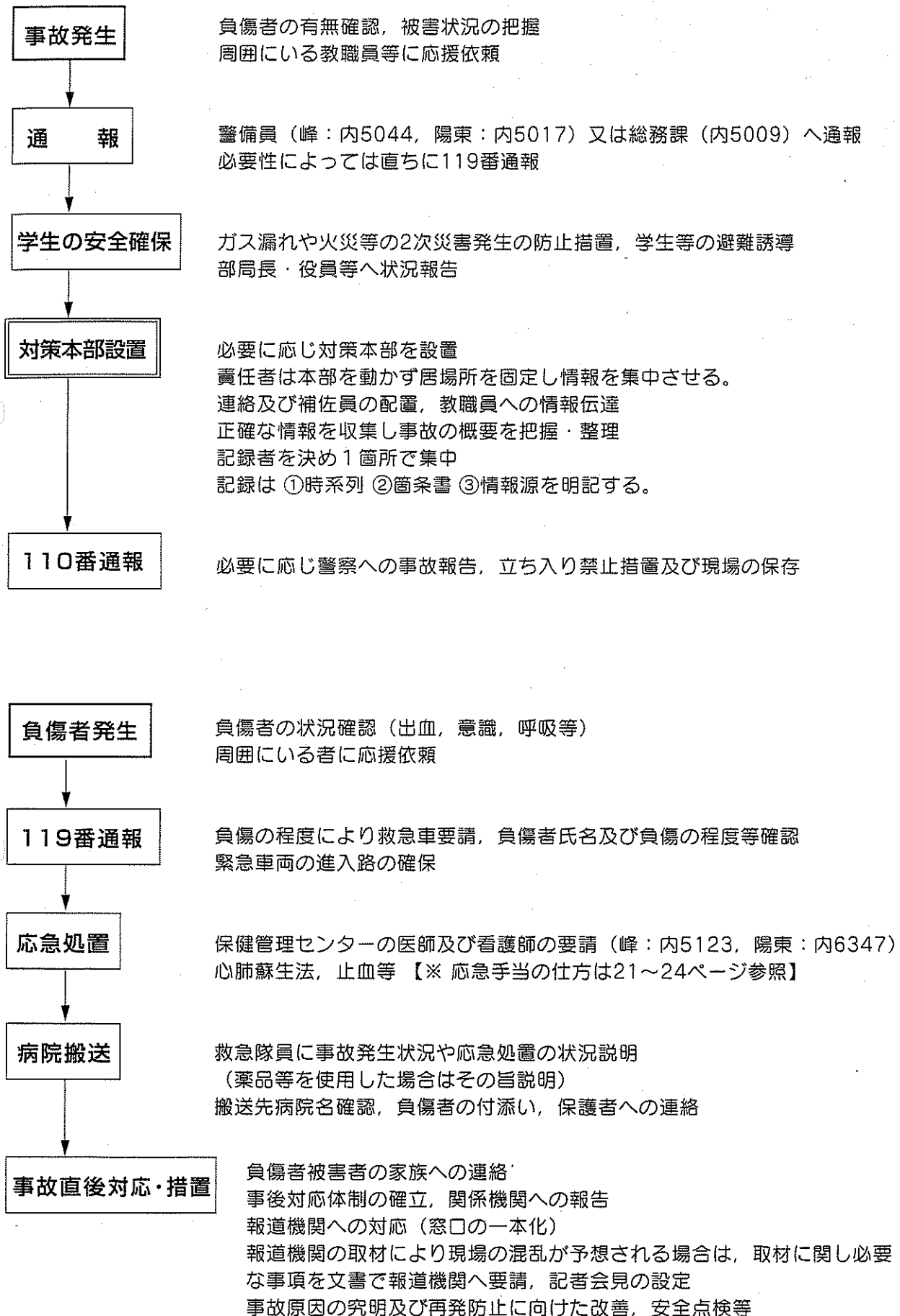
④ アカデミック・ハラスメントの禁止

- 就学の場で「指導」「教育」の名を借りて、特定の学生に対し不当な嫌がらせや差別、人格を傷つけることを行わない。
- 個人的な問題を必要以上に知ろうとしたり、介入しようとしたりしない。
- 圧力的な言動等により、学生に苦痛、不快感を与えない。

⑤ 執務中の態度

- 教師らしい服装や身だしなみ、言葉遣いを心がける。
- 学生および授業科目担当教員に対し、敬意を払う。

## 事故（授業・実験・実習等の事故）



# 負傷時の応急処置

## 1. 重傷度の判断

- (1) バイタルサインの確認 (図1 参照)
  - ①意識はあるか。
  - ②呼吸はしているか。
  - ③脈はあるか。
- (2) けがの部位, 顔色, 手足が動くかを確認

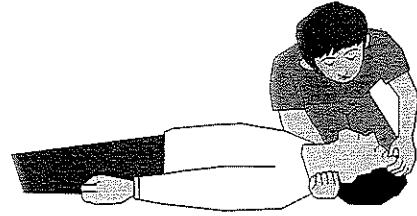


図1 周囲の安全を確認し、手当しやすい体制を

## 2. 脈がない場合

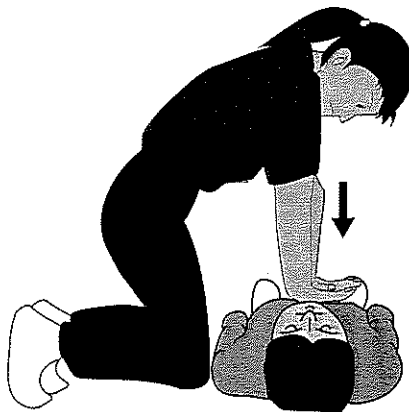
### 心臓マッサージ

- (1) 肋骨の下半分 (みぞおちから指3本程度上) に両手の手のひらを重ねておく。剣上突起 (みぞおちの直上) を圧迫すると骨折し, 内臓を痛めるおそれがあるので注意すること。
- (2) 両肘をまっすぐに伸ばし, そのまま自分の体重をかけて患者の胸を真下に向かって3.5~5cm押す。手のひらを離さず, 胸が元の高さに戻るまで力を完全に抜く。そのままの位置でこれを繰り返す。(図2)
- (3) 心臓マッサージと人工呼吸の回数は表1のとおりである。できれば二人で行うのがよい。
- (4) 心臓マッサージがうまく行われると, マッサージごとに大きな動脈で拍動に触れるようになる。
- (5) 心臓マッサージを1分間行った後脈に触れ, 脈が1分間に50回以上触知されたならば, 心臓マッサージを中止して人工呼吸を続ける。脈が戻らなければそのまま心臓マッサージと人工呼吸を続ける。
- (6) 心臓マッサージと人工呼吸は①呼吸や脈拍が十分回復し, 自発呼吸がでて脈が良好に触れるようになるまで, あるいは②医師や救急隊員に引き継ぐか, 他の人と交代できるまで継続する必要がある。

表1 心臓マッサージの方法

	胸を押す深さ	心臓マッサージの速さ	心臓マッサージと人工呼吸の割合	
			一人で行う場合	二人で行う場合
成人	3.5~5cm	100回/分	30回:2回	30回:2回
小児	2.5~3cm	100回/分	15回:2回	15回:2回
乳児	1.5~2.5cm	100回/分	30回:2回	15回:2回

図2 心臓マッサージ



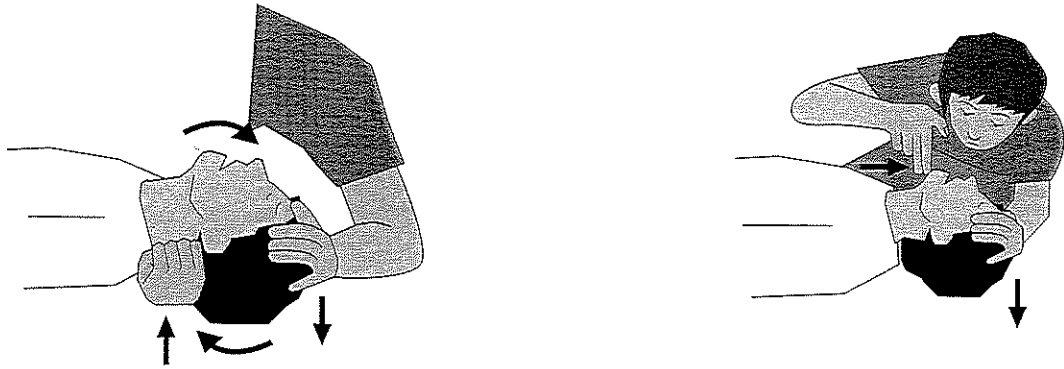
肘を曲げないこと  
棒状にしてピストン運動

## 3. 意識がない または 呼吸停止の場合

### (1) 気道確保

- ①まず口を開き, 口腔内に異物, 吐物, あるいは血液などがいないか調べる。もしあれば, 横臥させ注意深く除去する。
- ②次に一方の手を患者の前頭部に, 他方の手を後頭部に近いうなじにおき, 頭を後屈させる (図3)。
- ③ここで呼吸があるかないか判断する (図4)。
- ④呼吸がある場合: 昏睡体位を取らせる (図5)。
- ⑤呼吸がない場合: 人工呼吸を行う (図4)。

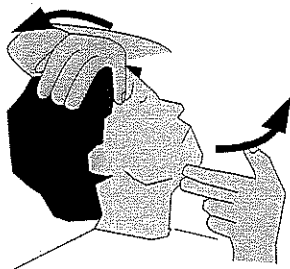
図3 頭を後屈させて気道を空ける



## (2) 人工呼吸

- ①患者の頭を下げ、顎を上引き、気道を確保しつつ、患者の鼻をつまむ。
- ②息を深く吸い、自分の口で息が洩れないように患者の口を覆い、1~2秒かけ自分の胸が空になるくらいまで息を吹き込む。
- ③抵抗なく胸が盛り上がり、音も立てずに息が入ることを確認する。この時、腹部が盛り上がる場合は、気道が十分確保されておらず、吹き込んだ息が胃に送られている。気道を再度確認する。
- ④口を離れたときに息が吐き出されるかを確認する。一回目の吹き込みが終わり、胸が元の位置まで戻ったら二回目の吹き込みを行う。
- ⑤次に脈の状態を調べる。
  - ・脈がある場合：人工呼吸を続ける。
  - ・脈がない場合：人工呼吸と心臓マッサージを行う。
- ⑥人工呼吸は5秒に一回の割合で行う。

図4 気道確保と人工呼吸



A 頭部後屈と顎先挙上

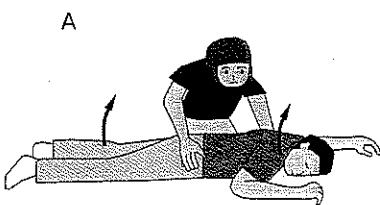


B 自分の耳を口の近くにもっていくと呼吸の有無を感じることができる



C 口対口人工呼吸

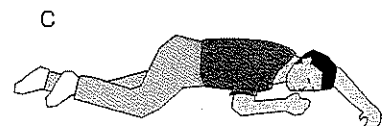
図5 昏睡体位の取らせ方



A



B



C

意識のない患者は、筋肉が弛緩しているから、A、Bのように自分の方へ引き起こす。Cのようにしておくと、意識が出てきたときに患者自身が好きな体位をとりやすい。手は必ずしも頭の下に敷かなくてもよい。

## 4. その他の場合

### (1) 出血

止血の手当を行う時には、感染防止のため、血液に直接触れないように注意する。

#### ① 圧迫止血

・傷口を厚いガーゼや布で押さえる。大抵の場合は、圧迫止血で止まる。

#### ② 指圧止血

- ・傷口よりも心臓に近いところの動脈を押さえて止血する。
- ・手足の場合は指で押さえられないので、布などで心臓に近い部位を縛る。
- ・止血した部位より心臓から遠い部分で、脈が止まったのを確認する。
- ・動脈は深い位置にあるので、強く縛らないと静脈のみが停止し逆効果である。

### (2) 骨折

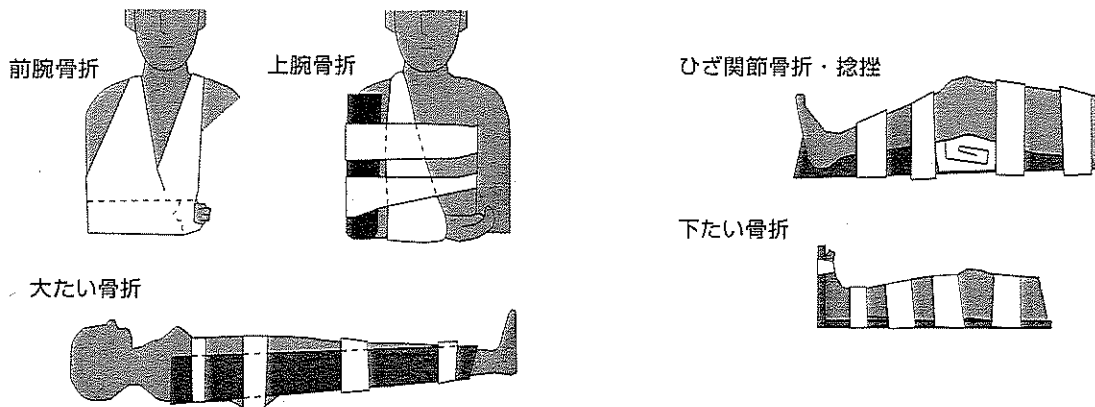
(激しい痛み、腫れがあり、動かせない。変形している。骨が飛び出している。)

①可能であれば、安静にして救急車を待つ。

②移動する場合は、副木をあてて、腕の場合は三角巾や大きな布でつる。(図6)

- ・副木は骨折部位の上下の関節が動かないように固定できる長さのものを使用する。適当な副木がない場合は、傘や丸めた雑誌等が利用可能である。
- ・骨折部位に隣接する関節も、一緒に固定するのが良い。
- ・副木をあてる時、タオルなどの布を介してあてると良い。

図6 副木のあて方



#### 注意事項

- ・副木をあてる際の注意事項として
  - 副木と患部の間に布や綿をあて、局所的な圧迫を生じないようにする。
  - 固定しようとする部位にある関節が過伸屈とならないようにする。
  - 固定に用いる包帯類は、血行障害を起こさないよう強く締め付けない。

### (3) 火傷

①急いで、おだやかな流水でしっかり冷却する。

②30分以上冷却を継続する。

③火傷の範囲が広いときは、医療機関を受診する。

### (4) 薬品

①皮膚に付いたとき

汚染した衣服を脱いで、シャワー(※緊急シャワー)または流水で洗い流す。

②目に入ったとき

- ・おだやかな水流の流水で、洗い流す。
- ・状態によっては、医療機関を受診する。

③吸入したとき

- ・被災者を速やかに新鮮な空気のところへ移す。
- ・自発呼吸が困難なときは、呼吸停止の時と同様に、人工呼吸を行う。

④飲み込んだとき

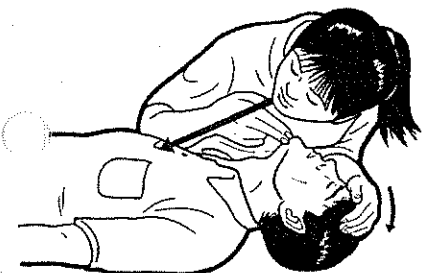
- ・すぐに吐かせる。
- ・酸やアルカリを飲んだときは、大量の水、牛乳、生卵を飲ませる。
- ・状態によっては、医療機関を受診する。

## 意識状態の観察、119番通報とAED手配

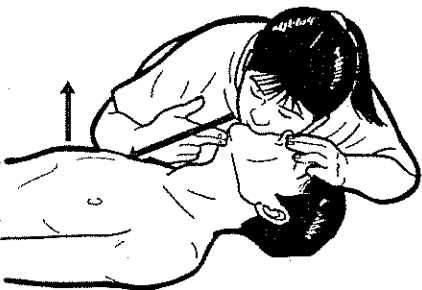


1. 呼びかけながら肩をたたき、意識があるかないかを確認する。
2. 意識がなければ、まわりにいる人に119番通報を頼む。  
同時に、別の人にAEDを取ってきてもらう。

## 気道の確保、呼吸の確認、人工呼吸

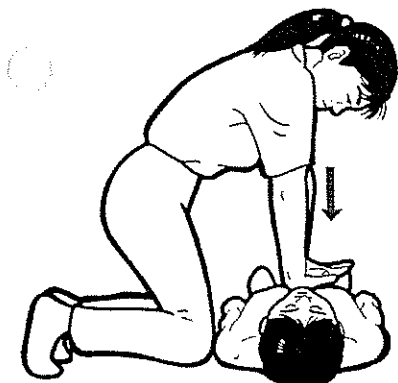


3. アゴ先を持ち上げて気道を確保する。  
傷病者の胸の動きを見る。同時に傷病者の口元に顔を近づけて、呼吸があるかないかを確認する。



4. 呼吸がなければ、人工呼吸を2回実施する。(省略可能)  
息は、傷病者の胸が上がるが見てわかる程度の量を、1回1秒かけて2回吹き込む。

## 心臓マッサージ



5. 2回の人工呼吸が終わったら、直ちに、**心臓マッサージ(胸骨圧迫)30回、人工呼吸2回を繰り返す。**  
〔AEDを装着するまで、専門家に引き継ぐまで、  
または傷病者が動き始めるまで〕  
圧迫は強く・速く(約100回/分)・絶え間なく  
圧迫解除は胸がしっかり戻るまで

## AEDが到着したら

1. 電源を入れる。

2. 電極を貼り付ける。

3. 機械の音声指示に従って操作する。

